

第13章 “君の頭をマリサの足の上に 突っ込んでくれたら。。。 ”

—記憶の小箱にしっかり入れて

鍵はお兄様に預けます。—

俳優の人生には本質的に冒険的な何かがあります。役から役へ、劇場か劇場へ、都市から都市へ、飛び回り、それぞれ異なった衣装、態度、表現に身を包み—ほとんど、実際のところ自分自身も異なっているのです。もし、彼が、映画に出演するなら、多くの魅惑的な場所での撮影のために世界中を旅するかもしれない、いずれも彼が故郷とは思ったことのない場所へ。すべては、彼や彼の仲間の俳優たちが、スクリーン上で作り出す虚構の世界の鮮やかな背景に過ぎないのです。それは、それぞれが独特で二度と作り出すことのできないエネルギーの切り離された、断続的な挿話の人生なのです。そして生涯をテスピス（訳者注：ギリシャの「悲劇の創始者」とされる紀元前6世紀の詩人。演劇における個としての俳優の役割を確立したとされる）に仕えたあと、後ろに残っているのは、—結婚、家族そして永久的な友人たちとの普通の思い出に加えて—数千もの断面からなる追懐であります：ブロードウェイでのあの時。。。ロ

ロンドンのあの。。。あの狂気のシーン、イスタンブールのセットだったか、いやロサンゼルス、それともエディンバラ、それともミラノーいやそれともパリ？

おそらくあなたは、これがどのように続いていくかお分かりでしょう。私が、私の人生で最も重要で意義ある話を詳しく語ってみて、一舞台や映画、そして政治的に、そして社交界についても一私はまだ色とりどりの残された思い出の断片の袋を、持っていることに気づきました。そのどれもが私の人生の大きな物語にはあまりつながらないのですが、残すには気がすすみません。それらをよろしければ、「ナイトキャップ物語」とでも呼びましようかー私が何人かの友人達と一緒に居るとき、そして皆中々寝るのには気が進まない時、夜遅くに私が話す逸話みたいなものです。そして私たちはもう一杯のブランディーを持ち、逸話を一つ、二つ、そして多分もう2つ3と交換するのです。

ですからこの章では、語りの部分あるいは統一したテーマー多分おそらく私が虚構の調達者として、世界を歩き回って得た楽しみ以外を見つけることは忘れて欲しいと願います。

それでは私の一番のそして恒久的な愛-生の舞台 - にまつわるいくつかの話から始めましょう。

1954年9月、ニューメキシコ州アルバカーキーのサマーハウス劇場で、プロデューサーのカール・ウェスターマンは「私はカメラだ」をポストシーズン制作で行うことに決めました。これは大戦前のベルリン描いたクリストファー・イシャーウッドの戯曲で、後に映画とブロードウェーミュージカル「キャバレー」として大ヒットし、ライザ・ミネリがサリー・ボウルズ役で、オス

カーを受賞することになる作品でした。私はクリス役に選ばれ、若くて愛らしい女優、ベティと呼びましょうか、彼女がサリー役に選ばれました。

しかしながら、驚いたことに、私は公演初日の夜に両方の役をやることとなったのです。それはこういう風に起きました。第一幕では、ベティは自分の役のセリフは、覚えていました—まあそこそこですが。第二幕では、彼女は、ディレクターが「今日のリハーサルは本なしでやろう」つまり台本をもたないで、ということですが、その時の俳優くらいの感じで台詞を覚えていました。そして第三幕、ベティが覚えていたのは、ナダ（注：スペイン語で全くない）、ジップ（俗：ゼロ）、ゼロ、ナシングでした。劇は通常の公演時間より30分長い公演となりました、何故ならベティが自分の台詞を思い出せない度に、彼女は私の方を向き、物凄い熱意で「あなたはどう思う、クリス？」と尋ねたからです。そして私は彼女の台詞を、なんとか私の言葉に混ぜ合わせて言うことになったのです。

前にその劇をやっていて良かったです—でなければ、それはもっと大変悲惨なことになっていたでしょうから。

その同じシーズンの別の時のことですが、私は「ミスター・ロバーツ」で、監督と主役とをしていました、私が大学ですでに演じていたものでした。第二幕は私たちが雇った地元の俳優の一行の台詞ではじまり、その俳優は古い手動の電光板使って、とても複雑な照明手順を行う係りでもありました。私たちの2度の衣装を付けたリハーサルの1回目の間に、明るい白い光（舞台マネージャーが操作していた）が舞台に溢れたとき、私たちの俳優で照明係りが怯えた目で私を見ました。「それは石灰光じゃないか！私はやめる！」と叫んで舞台から走り去り、二度と戻ってきませんでした。

私たちはリハーサルを辞め、ともかくすぐそばにいた一般人を捕まえ、丸ぼちゃの小さな12才の女の子ですが、照明ブースへ入れて50いくつかの合図を教えました。私たちはその夜幕を開けました、そして、そのおびえた小さい子は一つも合図を見逃しませんでした。私たちは彼女に、プリティーン（10代前半）の子どもにはまだちょっと大きすぎる船員帽子をかぶせ、船の名誉乗組員にしました。

衣装リハーサルは混乱を引き起こすものです。私が「ライトアップ・ザ・スカイ」を監督していて、初めて本当のセットを使った時のことです。私たちのこの制作の主演の女性はルイズと言う名前でした、そして4週間に渡るリハーサルで彼女は、我々の何もないステージで想像上のドアを開ける仕草をとでも上手くやっていました。明らかに、その仕草が身につけてしまったようでした、それというのも、衣装リハーサルで彼女は本当の玄関を通り抜け、そしてそこには無いドアを開ける仕草をするために立ち止まったのです。

幸いなことに、彼女は開幕の夜には、本当のドアを使うことをマスターすることができていました。

ミネソタ大学時代に戻りましょう、私が出演していたメルビルの海洋ドラマ「ビリー・バッド」の終演の夜、主演を演じていた俳優がロープのはしごの上立ち、劇の最後の台詞を言っていました—彼に死を宣告した男に対して感動的な敬意を評していました「ヴェレ船長に神のご加護を！」この時に、しかしながら、ドラムが感動的に低くドロドロと鳴り出すと、ビリー・バッドはバランスを崩し、15フィート下へ、まさにオーケストラ席の音をたてているドラムめがけて落ちてしまいました。それはとてもスリル満点の光景で、もし私たちがそのようにするつもりだったのならその芝居の効果的な締めくく

りにさえなっていたでしょう。(幸運なことに、その不運な俳優は命も手足もどちらも失わずにすみしました。)

生の舞台では何が起きるか予測がつきませんーそれが地方あるいは地域劇場においてのみならず、ブロードウェイ自体でも言えることなのです。

1965年、私はニューヨークで、ピーター・シャファーによる、「ロイヤルハント オブ ザサン」の征服者ピザロを演じている素晴らしいクリストファー・プランマーを見に行きました。私はアンクルの番組宣伝のために来ていて、とても良い10列目の席にロサンゼルスからの2、3の友人たちと座っていました。幕があいて2分くらい経った時に、劇場の前の方でブツブツ音が聞こえました。その音が舞台の上での動きと混ざり合い、その効果は超現実的でした。

オールド・マーティン

(16世紀半ばの白髪交じりのスペイン下級貴族)

私は聖書を「読むために干し草置き場寝転がっていたものだードン・クリストバルは騎士道精神に法っていた。そして彼はやって来て、現実とした。私人生の唯一つの望みは彼に出会わなければ良かった、ということだ。

ピザロが登場

(クリストファー・プランマーは軍服で盛装し、頑固な、やせ衰えた司令官姿)

私は雌豚の乳を飲んで育った。私の家はスペインで最も古い豚小屋

観客席からの声

ブツ ブツ ブツ。。。

オールド・マーティン

彼は新天地にすでに二度遠征をしていた。今60才を超えスペインへ戻ってきた、最後の試みをしようと。。。

観客席からの声

(前より大きく)

ブツ ブツ ブツ。。。

その眩きはより大きくなり、目立つようになりました。そして第一幕が進んで、ピザロが舞台で心臓発作で倒れました。(もちろん、演出の一部です)彼は床に倒れ込み、そこで苦しみにもがいて横たわりました。

プランマーが舞台で苦しみにうなり、もがいていると、つぶやいていた観客が叫びました、「アイゼンハワーはこれよりひどい心臓発作だったぜ！」そして私たちは彼と連れの女性が劇場から送り出されていくのを見ました。

休憩時間に、私は飲み物を取りに急いでロビーに行き、コックニーのバーテンドーについてもらいました。彼は「あなたがたの仲間が放り出されたと聞きましたよ」と言いました。その干渉しすぎた観客は俳優のゲイリー・メルルであったことがわかりました、彼は「イブの全て」に出演して、のちにその映画のスター、ベティ・デイビスと結婚しました。二人は結婚後10年の1960

年に離婚しました。ゲイリーは後にもう一人の偉大な映画スター、リタ・ヘイワースと関係を持ちます。

その夜の楽しみはまだ終わりませんでした。その舞台が終わって私たちはサルディに行くためにダウンタウンに向かいました。この夜はたまたまあの長く忘れられない(そして明らかにとても忘れられやすい)ミュージカル「摩天楼」の開幕の夜だったのです、ジュリー・ハリス、チャールズ・ネルソン・リリー、そしてピーター・マーシャルが出演し、その出演者たちがレビューを読むために習慣的にここに集り、いつものように二階ではなくメインフロアに座っていました。私たちが眺めるとコーナーにゲイリー・メルルと彼のデートのお相手が座っていました。彼はハンカチを耳に詰め(耳から垂れていました)そして犬のように吠えていました。すると彼は膝をついてそのテーブルにいる人たちの靴に噛み付き出しました。もちろん彼とお相手はまた見せから叩き出されました。

(一週間後、私はゲイリーをウェイン・モース上院議員との朝食に招待しました。彼は完璧に健康的でしらふでした、そして上院議員にベトナムに関して沢山素晴らしい質問をしました。)

その夜はまだ続きました。 私たちは今は有名なレストラン、ジョー・アレン、当時は新しい社交場、に行きました。プランマー自身がやって来て、私たちは二時までバーで話してしまいました。 私はプラザホテル(もちろん、MGMとNBCが払っています)に泊まっています、それほど遅くなったので、「私の部屋へおいでよ、そして飲みながら映画について語ろうよ」と誘いました。もちろんその時までには相当飲んでいていました。混雑したホテルのロビーにはとても背の高い、装いの良い黒人の売春婦がいました。私たち一団は彼女を部屋に誘いました。彼女は明らかに私たちが誰だか気づいていませんでした。飲み

物を注文し、クリスと私は、プランマーも演じたことがあるハムレット、について深く語りだしました。私たちのゲストは部屋を去る前に、高級ワインと食事を注文しました。しかし、彼女が食事をしている間、私たちはセントラルパークを見渡すバルコニーに出て、ハムレットの独白を代わる代わるに暗唱していました。

私が思い出せる生舞台のより信じられない一夜のへ、完璧な終わり方でした。

60年代前半のあるとき、私はクリスマス休暇の間、ロンドンで時間を潰していました。私は、チェスターストリートからちょっとはずれたベルグレイブスクエアでの正装パーティに招待されていました。チェスターストリートは、私が1971-72年にITVの「プロテクターズ」シリーズの最初の24話を撮影している間に、将来の妻となるリンダと、イギリス滞在の前半を過ごした場所です。

私はイングリッシュボビーの赤の縁どりがある黒のレインコート-特に民間人用につくられた-を購入したばかりでした。

パーティには私が50年代のころ、「ピーター・ポッターのジュークボックス陪審」というタイトルのTV番組に、彼女が継続的にゲスト出演していたときに、会ったことがあるザ・ザ・ガボールも来ていました。その当時は、彼女は30代で、第二次世界大戦前の1936年にミスハンガリーに選ばれていました。

私は、私たちの以前の出会いを思い出してもらい、ジョン・ヒューストン監督映画、トルーズ・ロートレック役のホセ・ファーラー主演「赤い風車」(1952)での彼女の演技に敬意を評しました。

私はガボール女史とともに会場を出て、ドーチェスターホテルの私の素敵なスイートルームに帰るであろうと間違いなく思っていました。しかしながら、ラグビーについてのイギリス映画、「孤独の報酬」(1963)での素晴らしい演技で、とても感服している俳優、が私が購入したのと同じコートを着て到着しました。私たちは演技について、語り合い、笑い、また笑い、語り合いました、特に「ハムレット」について、そして会場を去ろうとする時には、私はザ・ザ・ガボールとリチャード・ハリスを交換していました。

当時のイギリスの法律では、全てのパブは午後10時きっかりに閉められていました。リチャードは、その時の彼のロンドン新聞雑誌連盟の記者であるガールフレンドの家に行き、そこに彼が隠してため込んだウィスキーを飲むべきだと言いました。私が下の広間で待っていると、物を投げあう喧嘩が二階ではじまりました、怒鳴り声とグラスの割れる音がしました。15分ほど待って、私が去ることを考えている時に、リチャードが突然私の大好きなブランデーの一つ、最高級のギリシャのメタクサを一瓶持って現れました。

そして私たちはタクシーを呼び止め、ハイドパークとその辺を目的もなく移動し続けました、葡萄の瓶を二人の間で行ったり来たり回しながら。あたりが明るくなり始めても、私たちはまだ喉が乾いていました、しかしパブは10時まで開きません。突然、リチャードが「俺たちにナイトキャップ(正確には夜明け酒です)をくれるだろう友達が居るよ」と言い、コベントガーデンへ行くように運転手に指示しました、そこでは若者たちがその日の農産物を荷卸し、価格交渉していました。彼らは皆リチャードを知っていて、レミー・マルタ

ンブランデーが私たちの到着に捧げられました。それから私たちはひどく小さな食べ物屋へ行き、とても美味しいソーセージと、鮭の燻製と、玉ねぎと一緒にスクランブルされた卵の朝食を食べました。

私はその後何年も、エルストリースタジオへの通りを渡っているときまで、彼に会うことはありませんでした。彼はとても長い白いあごひげを蓄え、長い茶色のガウンを着て、杖とエールの瓶を手にしていて、まるで旧約聖書の預言者のようでした。私は彼の目を捉えました、が結びつきはしませんでした。

その後まもなく新世紀の始まりの頃、BBCの番組「華麗なるペテン師たち」の私の運転手であったベンは、実はこの期間の、イギリスのファンタジー映画の一つに出演していたリチャードの運転手だったのです。ベンが言うには、彼の晩年にはリチャードはサボイ・ホテルに住んでいて、彼が時間通りにスタジオに入り、昼食の時に居なくなって戻ってこないことがないように見張るのが彼の責任だったのだそうです。

ある日の午後、リチャードの通常のパブ巡りを徹底的に探して回った後、彼はリチャードが4レーンの道路の真ん中で椅子に座って、注意深く行き交う車を見ているのを見つけました。ベンが彼を見つけた時、彼はリチャードにスタジオに戻る時間が過ぎていることと、何故このような危険な場所に座っているのかを尋ねました。リチャードは簡単にかつ凄まじい熱意で、「私は、行き過ぎる世界を見ていたんだよ、そして私の家が近づいてきたら、中に入ろうとしていたんだよ」と応えました。私には意味が分かるように思いました。

残念なことに、リチャード・ハリスは、余りに早く亡くなってしまいました、その才能とお酒を飲む能力とが比例した他の沢山の偉大なイギリスの腕白者

たちのように。彼ともう一度はしご酒をする機会を持てなかったのを、残念に思います。

もう一つ、これと同じ時期の、あるよく知られたハリウッドの住人とのさらに短い遭遇の話です。私はこれを何が起きたかではなく、何処で起きたかで、覚えています。

1962年、私がシュワブズ・ドラッグ・ストアで座って、「ディリービューティ」を眺めていると、サンセット通りに最初のトップレスレストラン、バー開店を告知する記事を見つけました。私はその日付と場所をメモして、その素晴らしい日が来たときには、早くそこへ行くようにしようと思いました。(その後この画期的な出来事についてかなりの記事が出ていたので、私は混雑して入れなくなるのではないかと心配していました)。

開店は11:30に予定されており、私は10時に着き、私の新しいリンカンコンティネンタルを直ぐ外に止めました。

中に入りました。その場所はとても暗く、特に外の南カルフォルニアの明るい日差しとの対比で、とても暗かったのですが、メガ慣れてくると、ガラガラのテーブルと席しかみえませんでした。入口近くのバーの席に座り、私は日にちを間違ったのではないかと考えていました。しかし、すぐに私が一人ではないことに気がつきました。バーの反対側の端には仲間の俳優がいました、私は一、二度社交の場で会った事がある人で、今そこに座って私に微笑んでいました：ウォーレン・ビューティでした。

彼はすぐに国際的な映画スター、絶賛される監督、そして政治的な活動家になるのですが、その時はまだシャーリー・マックレーンの弟として知られているのがやっとでした。そして今私はさらに彼がL, A, で、新しいトップレスバ

ーをチェックしようとわざわざ朝早く起きる他の唯一の男であることを知りました。

私は舞台を愛しています。しかし、私のキャリアは映画で演じる機会によって莫大に豊かになりました-経済的な面だけでなく、です。私は世界中の映画用の舞台での仕事でもオフの時もいくつかの素晴らしい愉快的な経験をし、多くの国々を見てきました、もし私が映画の撮影のためにそこへ行かされたのであれば絶対に訪れる機会が無かったであろう国々です。そして映画での演技は私に沢山の世界の優秀なスター達に引き合わせてくれました。

1968年11月の終わり頃、ブラハでの私の夏の長い冒険の後アメリカに戻る前に、「ザ・マインド・オブ・ミスターソームズ」の脚本が私に送られて来ました。映画はテレンス・スタンプを主役にする予定でした、彼は映画版「ビリー・バッド」（私がミネソタ大学時代にやったのと同じ劇）の主役で大成功していました。私はそれを読み、気に入りました、特に風変わりな人物のソームズを育てるための最善の方法を提案する革新的な精神病医の役を気に入りました。（何故私が風変わりと言うのかでしょう？テリーの演じる役を初めて見たとき、彼は幼児用の寝巻きを着て、夜は特別に作られたサークルベッドで眠るのです-30才で）

出演者は撮影の始まる前に短時間の本読みをしました。テリーはそこにはいませんでした、そしてそのことは私は全然きにしませんでした、何故なら大きな赤ちゃんとしての役では彼はほとんど話さないからです。しかしながら、撮影に入って数日立ってもテリーはまだ話しません、セットに居る時も離れて居

る時も、です。 私は、彼が役に対してイギリス流の「方法」のような物を用いていて、黙っているのは役に徹する彼なりの方法なのだと気がつきました。

ともかく、私は誰かからテリーはこの映画の撮影が終わったら、精神的なグループを探し求めてインドへ行くつもりであると聞きました。これは、もちろん、ビートルズや他の多くの人々がインドへ悟りの探求のために旅したのと同じ時期でした。テリーの独創的だったところは、しかしながら、彼は旅に何の荷物も持たないで行く計画であったことですー彼は着の身着のままで行くつもりでした。私はこのテリーの非現実的な行動にむしろ感心しました、後に彼がイギリスポンドを彼の衣服のどこかにこっそり忍ばせていたのを知りましたがー一念の為ですね。

テリーと私はそれから何度か出会いました、そして彼はいつも私には暖かく、丁寧でした-魅力的な人物であると同時に。

「ザ・マインド・オブ・ミスターソームズ」の撮影を終える前に、私はプレーボーイ誌のある人から「ジュリアス・シーザー」映画版に出演する気はないか、と話を持ちかけられました。もうすでにかなり良い出来の作品が1950年前半に、マンキーウィック監督、マーロン・ブランドー、ジェームス・メイソン、ジョン・ギールガッド、デボラ・カー、ルイス・カーン、エドモンド・オブライエン出演より、作られていました。

マンキーウィック監督は決して内気な人ではなかったようで、彼は、シェークスピアの台本に手を入れ、厚かましくもタイトルに「シェークスピアのジュリアス・シーザー マンキーウィックによる会話追加」としていました。

私はその話は誰の発案によるものなのかをプレーボーイ誌の人に尋ねました。どうも、チャールトン・ヘストンがーノースウエスターンの学生時代にモ

ノクロの16ミリのジュリアス・シーザーを彼がマーク・アントニー役でやったのですが、ズーとカラーの大きな映像でやりたかったようなのです。そしてついに、うまくプレーボーイ社を丸めこんだようで、69年の春にスペインとイングランドで撮影をはじめるところなのだったということでした。他には誰が出演するのか尋ねたところ、錚々たるスター達の名前がありました：ジョン・ギールガッド、ダイアナ・リグ、リチャード・チェンバレン、リチャード・ジョンソン、そしてジェイソン・ロバーズがブルータス、ジェームス・メイソンがマンキーウィックの映画でやった役。

私はジェイソンにはまだ会ったことがありませんでしたが、彼の意見の衝突ぶりや飲みっぷりについての逸話を聞いていたので、彼と知り合いになれる可能性がこのプロジェクトを私にとって魅力的なものにしました。私は提案を受け入れ、以前の映画でエドモンド・オブライエンが演じたキャスカ役に志願しました。キャスカはまだ決まっていなかったもので、そうして私も参加することとなりました。

私は「ミスター・ソウムズ」をやっているときに髭を伸ばしていたので、そのまま、「シーザー」のために伸ばし続けることにしました。私たちは、最初の本読みと立ち稽古を、ロンドンのイーストエンドにある正当派演劇のリハーサル室というよりは不法占拠者の住居のような典型的な安っぽいビルの一室で行いました。この本読みを通して、私は2つの事に気がつきました。ひとつはジェイソン-その朝初めて会ったばかりですが-ひどい時差ぼけ(その日ハワイから飛んできた)か、あるいは二日酔いなのか、ともかく、シェークスピア語がまったく不得意であったということ。そしてさらに悪いことには、われらが噂のスター“チャックル”・ヘストン(ジェイソンが彼をそう呼んでいた、面と向かっては言いませんでしたが)アントニーの彼の解釈がジェイソン・ロ

バーズのブルータスの解釈より以上に安心できない感じだったのです。大失敗の可能性にその場の空気が重く感じました。

その日の終わりに、ジェイソンと私はお酒を共にしました。彼はジュリアス・シーザーを読んだことも見たこともないと私に告白したのです。そして、その彼の役を学ぶのに私に手伝ってもらいたいと言うのです。私はテープレコーダーを使って一緒にやろうと提案をし、驚いたことに彼はそれを受け入れたのです。私たちが見つけることが出来ただひとつのテープレコーダーは、とても大きな古いリール式のウールンサックのものでした(60年代のことではありますが、それでもウールンサックは古すぎです)

私たちは一シーンづつ、すごくアメリカっぽいジェイソン・ロバーズをエリザベス朝の言い回し、シェークスピアの韻律になじむように一緒に作業をしはじめました。

私たちの努力にもかかわらず、ジェイソンはこの企画が破滅することを感じ取っていました。「ヘストンと自分のせいでこの映画を火だるまにしてしまうかもしれない！」

しかし、もちろん契約に縛られるので、集め得る限りのお金を集めました、コネチカットのノーウォークの家さえも抵当にいれてです。そして、プロデューサーのところへ行き、なんとかこの映画から降ろしてもらおうとしたのです。しかし、答えは「ノー」。ジェイソンには少なくとも彼の役割だけは映画が成功するように試みるほか選択肢もなく、私たちは撮影を続けました。

ロンドン滞在中は、私は「メイフラワーⅡ号」というハウスボートに暮らしていました、それはチスウィックのホガース環状交差路からちょっと外れた、チャーチストリーの端に錨を下ろしていました。(私の友人のメリー・オレ

ックが、私がロンドンに行くとき、「メイフラワーⅡ号」の所収者でブラックリストに載せられたことのある、ヒル・ブラウンを教えてくださいました、そして彼はアドリア海の海岸で夏を過ごす予定でした。私はフィルのボートに滞在するのをとても気に入りました。) ある夜、ジェysonと彼の将来の妻、ロイス・オコーナーが思いがけなく立ち寄りました、我々の俳優仲間であるリップ・トーンを後ろに従えて。二人に紳士は泥酔状態をはるかに超えていました。しばらくして、まあ暗くなってからですが、私たちはリップがいないことに気がつきました。これは奇妙でした、船の唯一の出口は私たちの側を通らなければならなかったからです。彼は私たちの側を通っていませんでした、しかし私たちはウィスキーをととても飲んでいたので、リップが何処にいるのかを全く気にしませんでした。私たちは後で彼がボートから落ちて、岸に辿り着く為に激しく戦ったと知りました。

私は数年リップに会いませんでした、そして再び彼に会った時、彼はその夜のことを全く覚えていませんでした。

ジョン・ギールガッド (彼の友人達にはジョン・G) によるシーザーを描く映画の最初に撮影されたシーンは、彼がガリア戦役に勝利し凱旋したときにローマ市民によって祝宴を持たれるところでした。スケジュールの都合により、そのシーンは道の群衆なしに撮影され、その群衆のシーンは別にとられることになりました。不幸なことに、群衆の中にプレイボーイ誌のシェークピア作品に対する貢献として、ヒュー・ヘフナーの家のパーティから時空を超え旅してきた避難民のような、はだかの胸を出した美女たちが居ることを、ギールガッド卿に誰も知らせていなかったのです。これらのショットをギールガッド卿が群衆に笑顔で手を振っているシーンと編集したとき、シーザーの頬笑みがま

るでオオカミのような厭らしげで、シェークスピアが決して思ってもいないと私が確信する印象を、与えることになったのです。

ローマのコロセアムの複製がロンドンのMGMスタジオに作られました。しかし財政的な理由で構造上小規模になりました。マーク・アントニーという役柄上、ヘストンはそれでなくてもとても大きく頑強な体なのに、金の翼のようなもので彼の肩をさら少なくともそれぞれ15センチづつ幅を広げたのです。ジェイソンがこれに気付いた時、「チャックルはあのトンネルを通るには幅広すぎるんじゃないか？そしたら、俺たちこの大災害から皆解放されるかも」といたずらっぽく私に言いました。悲しいかな、ヘストンはとても機転がきいていて、そうはさせなかったのです。彼は単にトンネルを通る時横を向き、ミニコロセアムへの狭い通路を驚くほどの優雅さを持って通り抜けたのです。

失敗の気配がその全プロジェクトに依然漂っていたものの、私たちはどうにかしてこの撮影を無事やり遂げました。数ヵ月後、私はカルフォルニアのスタジオ・シティの小さな劇場で完成した映画を見ました。ギールガッドとプレイボーイバニーのオープニングシーンでのクスクス笑いのあと、劇場から少しずつ観客が出て行きました。シーザーの死のころには私と私のポップコーン以外は完全に誰もいなくなりました。たとえシェークスピアの台本でも失敗しないという保障はないということです。

ヘストン、ロバーズ、そして私はこのような不運なジュリアス・シーザー制作にかかわり、判断の悪さを示してしまったかもしれません。しかし私たちは少なくとも文字通りの馬鹿ではなかったというのが、昔の共演者たちについて私が言葉で言い尽くせないことです。

1975年、私は代理人のジョー・フニセロ（皆の人気者、マウスケティアのアネットのお兄さん）から電話を受けました。世界的に大きなタレント事務所のICMのローマ事務所が私を「ザ・ベイビーシッター」という題の映画の主要な役の一人にと、希望しているようでした。それは有名なフランス人監督のルネ・クレマンの監督で、あの物議を醸し出した1972年の「ラストタンゴ イン パリ」でマーロン・ブランドの相手役のマリア・シュナイダーが主演する予定でした。高貴の映画評論家のポウリーン・カエルがその映画を「かつて作られた中でもっとも力強く性欲をかきたてる映画であり、最も解放されたものとなった。。。ベルナルド・ベルトルッチとブランドは芸術形式の外面を変えた。」と評しました。今日「ラストタンゴ」のDVDを買うかレンタルする殆どの人々は何がそんなに大騒ぎになったのかを見るためだけにするので、そしてその映画の更に有名なシーンの一つにマーロンとマリアがバターの棒を使った想像的な目的を確かめる為に。（その映画の宣伝をしている間、シュナイダーは記者たちに彼女とブランドはひとつだけ共通点がある―「両性質」である、と語りました。ああ、自由奔放な70年代よ！数年後に、彼女はロジャー・エバートにこれらのことは単なる「ジョーク」であったと言いました。私はいずれにしろ彼女の性的気質についての個人的な証明はありません。）

私は「ザ・ベイビーシッター」に契約し、仕事を始めるために、ローマに飛びました。私たちの早期のシーンは夜の道で撮影され、クレマンは暖かな車の中から、奥さんを脇に置きながら指示を出し、私たち俳優は冷たいローマの空気のなかで働かされました。私はマリアにちょっとだけ会いました。彼女はとても若く見え、可愛く、礼儀正しく、そして女学生のような女性らしさ、ある意味ロリータのような感じがありました。私はちょっと戯れを察したと思いました、が、それは間違っていました。そのすぐ後に、マリアが失踪し撮影が中断しました。数日経ち、私たちは何が起きたのかが分かりました。イタリアの

法律の下では、もし、彼女が感情的に関係した誰かが既に入院していることを、彼女が。証明することができれば、精神療養所に自主入院できるのです。これがシュナイダー嬢が、やったことで、どうやらイタリアのまぬけ男に恋いしたようでした。

プロデューサーが彼女を見つけ出すと、彼女は私が映画の監督を引き継がない限り撮影には戻らないと宣言しましたーこれが如何に彼女がばかげていたかです。私はその栄誉を丁重に断りました。

マリアは結局撮影を終わらせるために戻り、クレマン氏は撮影の残りの間私に全く注意を払いませんでした。（もし私が精神療養所から出てきたばかりのスターを監督したなら、私も全ての注意を彼女に注いだと思います。）その映画はフランスで「Jeune fille libre le soir」と言う題名で公開されました、そして今日まで私は一度もそれを見ていません。しかしながら、あるイタリアのファンがそのビデオテープを私に送って来てくれました、そしてそれを見るのを楽しみにしています。。。いつの日にか。

私は自分の俳優としてのキャリアが多くの精神的に不適任な人との出会いをもたらしたことを暗示するつもりではありません。実際のところ、私は何人かのハリウッドで最も聡明で才能のある人達と仕事をする光栄を授かりました。この中にはずーと前の1960年に初めて一緒に仕事をした、私の友人のブレイク・エドワーズ、がいます。

その頃ブレイクは彼の上品な作風で洗練された探偵物で有名でした：彼は「ピーター・ガン」と「ミスターラッキー」と云う、50年代後半と60年代初期の最も懐かしく思い出される番組のうちの二つを作り出しました。彼は私

にTVのパイロット番組「ボストン テリア」で、ボストンの名門家庭御曹司が私立探偵になるという、探偵 A・ダンスター・ロウエル役のために電話をくれました。

そのプロジェクトについて検討するための最初の会議は、しかしながら、上手くいきませんでした。ブレイクと TV 番組作家のトム・ワールドマンが私とロマノフで昼食を取る約束をしました、ロマノフはビバリーの丘のボギーの一番の昼食場所でした。

何らかの理由で、ブレイクとトムと会うその時、私はとても顔色が悪かったのですーそれが結構気になっていました。私は普通は南カルフォルニアで一年を通して結構日に焼けていたのです、私は仕事中にメイキャップをするのが好きではなかったのも、それが私が養った質でした。（アンクルの間は、全くメイキャップをしませんでした。）

私はひと塗りでバルバドスの住人のように見える、マン・タンと呼ばれる新製品について聞いていました。それでその昼食の会合の前日の夜にそれを試しました。翌朝起きて、鏡を見ると、肝硬変の末期のような顔つきの男が居ました。

何が出来るでしょう？私はビバリーヒルズに向かい、ブレイクとトムに合流しました。彼らは二人とも禁酒家でした、が私は何杯かのウォッカギムレットを注文しました。私の外見と飲酒の組み合わせは、私に保険のリスクがあるのではないかと心配させました。それでもなお、彼らは勇敢にも私でパイロットを進め、問題はありませんでしたー少なくとも保険という点では。「ザ・ボストン・テリア」は採用されませんでした。

今私はいつもベン・ナイ・メイキャップ No.3 を持ち歩いています、ケーリー・グラントが私に勧めてくれた日に焼けたように見えるものです。肌のトラブルが起きないとは保証できませんが、役には立ちます。

ボストン・テリアの日々で、もう一つ加えずにはいられない、私の逸話があります。

正に撮影を開始しようと言う前の晩に、私はボストンの、とてももったいぶったリッツ・カールトンホテルのバーに座っていました。私は、可愛らしい、素敵な服装をした、リサという女性とおしゃべりをし始めました。

だんだんと、その魅力的なリサは、私が「デート」の可能性があると見なした、プロの女性であることが分かりました。彼女の時間を無駄にしたくなかったので、私はそういうことには興味がないと急いで言いました。

リサは微笑み、「心配しないで」と言いました。「あなたと無料で夜を一緒に過ごすのは構わないわ。今日はジョージ・ワシントンの誕生日ですもの」

私には関連がわかりませんでした、こう返しました。「まあ、彼は決して嘘をつかなかったからね。」その考え方は、まだ私には理解できませんでしたが、リサのユーモアのセンスが気に入りました。私たちは夕食を共に楽しみ、そして私のホテルのスイートルームへと向かう途中、リサはエリザベスを短くしたものか尋ねました。

「いいえ」彼女は「リストラタ、戦争を終わらせるために男たち身を任せるのを拒否した女性よ」と言いました。私は彼女が何を意図していたのか確かではありませんでしたが、リサは今まで遭遇した娼婦の中で一番読書家であると決めました。

私の部屋で、失礼をしてバスルームへ行き、お金のクリップを便器の首に隠す作業を勧めました、上の縁の直ぐ下にです。（リサを信用しなかった訳ではなく。。。いえ、信用していませんでした） 私が戻ると、リサは「今度は私の番ね」と言ってバスルームへ行きました、まだ彼女の冬のコートを持ったままでした。

私は飲み物を作るのに、バーへ行きました。私が居間に戻ったときには、リサの姿はどこにもありませんでした。私はバスルームへ駆け込みました。空でしたーそして私のお札クリップも、それは大理石の洗面台の上に彼女が残して行きました。彼女がいたと言う唯一の他の記しは、鏡に口紅で落書きされた歪んだ笑顔でした。

とんだワシントンの誕生日。

数年後、私はブレイクと彼の映画で仕事を一緒にすることとなりました。その映画のタイトルは “SOB” Standard Operational Bullshit 略で、彼の奥さんのジュリー・アンドリュースの映画をパラマウントで製作している間に書いた台本でジョービジネスにまつわる話です。当時、スタジオはロバート・エバンズ（私の友人のパティ・ウィーラーと14才の年でベッドで捕まった男）が経営していました。 アンドリュース/エバンスコンビの映画はことごとく失敗して、腹立ち紛れにエバンズがブレイクに言ったセリフ「お前は二度とこの町で仕事出来ないぞ！」ーその後ショービジネスの世界で誰もが使う有名な言葉になりました（お金を見せて見ろ！のように）。

それはともかく、“S. O. B.”では、ブレイクは私を彼のスタジオのいじめっ子エバンスを、ちょっとヴェールで隠したような役に配役しました。しかしながら、その映画での経験の一番記憶に残るものが、私の撮影初日の撮影の仕方、ユニークとしか言いようのないものでした。

私は事前にあるシーンで女装することが必要となることは言われていました。それは私一見せかけを生業としている男は誇り高くしてられないので、すーにはかまわなかったのです。そのセットでの初日、映画でのガールフレンド(エレガントなモデルのマリサ・ベレンソンで、ファッションデザイナー エルサ・シアパリの孫) と会いました。

そして、私はすぐにちゃんとした扮装をするために連れていかれました。

その日の台本を詳しく見ていなかったなので、私は自分の扮装した姿に少々驚きました—女装というだけでなく、赤のネグリジェ、メッシュのストッキング、10センチのヒールサンダル。この私の盛装した姿で、寝室のセットにアシスタントディレクターによって導かれて行きました。撮影スタッフはすでにスタンバイしており、マリサはベッドに、そしてブレイクが指示を出しました、「撮影を始めよう。じゃあロバート、マリサの足の間に頭つつこんで、そしたら始められるから」

もしあなたが、このようなセットでこの後どんなシーンが続くか想像しているとしたら、あなたが多分考えているものとは違うと言っておきましょう。そのシーンはベッド横の電話がなるところから始まります。マリサが手を伸ばし、電話に出て、「あなたによ」とベッド反対側にいる私に手渡すのです。

いやいや、役者として簡単に聞こえるかもしれませんが、いつかやって見てくださいよ。

もし、まだ“S.O.B.”をまだ見たことがないのだったら、ジュリー・アンドリュース、ウィリアム・ホールデン、ロバート・プレストン、ラリー・ハグマン、シェリー・ウィンターズ、ロレッタ・スイット、そしてリチャート・ミリガン出演による、見事なまでのハリウッドをこき下ろした作品です。今でも映画産業に一度でも携わった人誰にも愛されている作品です。何よりも私はこの映画で何度も「お前は二度とこの町で仕事できないからな！」と言う機会を得ました—ドライブインの給仕、タクシーの運転手、ウエイトレス、などなどに、

ですが。あのドナルド・トランプ「お前は首だ！」というセリフに匹敵するくらいの権力という幻想ですね。

“S. O. B.”はにせ芸術の世界の興味深い例を提供しています。ストーリーは純真無垢なイメージの国際的スターが専制君主的なスタジオのボス（私ですが）に、そのミュージカル映画に刺激を加えるために、胸を出すように強要されるものです。これを可能にする唯一の方法が彼女のお昼の時に沢山飲ませて酔わせることでした。

このシーンを撮影する日がやってきたとき、ブレイクはそのシーンに必要な鍵となる人以外をすべて閉め出しました—私も入れませんでした。しかし、後から伝わってきた話によると、ジュリーはそうとう長〜い、アルコールランチの後でないと服の上をはずすことは出来なかったようです。真実か嘘か？私の調査にも関わらず、事実を確かめることはできませんでしたし、ジュリーも彼女の素敵な回想録“Home”の中で暴露することはありませんでした。

私が一緒に仕事をした忘れられない性格の人びとの殿堂の一番上に居るのが、イギリス俳優のオリバー・リードです、「恋する女たち」、「肉体の悪魔」「三銃士」といった映画でおそらく良く知られているでしょう。

私はオリーに80年代に会いました、初めてアフリカで仕事をする機会を得たときです。私の亡くなった友人ウィリアム・ホールデン、私が今まで一緒に演じた（S. O. B.、タワリングインフェルノ）中で最も気持ちの良い紳士の一人である彼が、「タワリングインフェルノ」の撮影期間中に、お酒を飲みながらの長い昼食を共にしながら私にアドバイスをしてくれたのです、「ボブ、もしアフリカで仕事をする機会が有ったら、イエス、と言いなよ。」ビルはケニヤ・サファリ・パーク・クラブの創立会員の一人で、彼が仕事を休止しているときの殆どを暗黒大陸で過ごしていたのです。

80年代半ばにその機会が訪れました。それはジョー・フニセロからの電話でした、プロデューサーのハリー・アラン・タワーズ-ザ・ハット (HAT) とジョーは好んで言っていました-が「スケルトンコースト」に出演して欲しいがっている、アーネスト・ボークナイン、オリバー・リード、そしてハーバート・ロムと出演でナンビアと南アフリカで撮影する予定の映画であると伝えられました。

ハリー・タワーズは伝えられるところによると、イギリス政府を揺り動かしたプロフモスキャンダルにどういふわけか関わっていた(かどうかしたとジョー・フニセロが言った)らしいのです。私は更にハリーが良く、イギリスの政治スパイ映画「第三の男」における第四の男と言われていた事を聞いていました。私はこの事をハット話している時に確かめることが一度も出来ませんでした:私がこのことを持ち出すと何時も、彼はいつも彼の一番の曖昧な笑顔を見せるのでした。

ともかく、私はヨハネスブルグ(地元ではヨバーク)に1983年の聖土曜日に到着しました。家を出発する前に、ザ・ハットが電話をしてきて言いました、「オーリーと彼女が君に復活祭の日曜日の昼食に僕らと一緒に参加して欲しいそうだ。きっと気に入るよ-僕らはヨバークでとても高級なレストランに行くんだ。」

私は丁重に断りたかったのです。「きっとひどい時差ぼけになっているんじゃないかな？」

ザ・ハットは一蹴しました。「ロンドンから飛行機で12時間だけど時間帯は一つしか超えないよ。大丈夫だよ。」それで昼食の約束をしました。

そのレストランは本当に素晴らしく、復活祭を祝うために盛装した家族連れで一杯でした。最初からオリーとお相手が飲酒部門については相当量の助走を私たちより早く始めていたことは明らかでした。手短に挨拶を交わした後に、オリーはウェイターを呼び、アイスバケツの中の空のワインボトルを指差しました。殆ど直ぐに新しいワインボトルが到着し、オリーが今度の映画の冒険へ乾杯の音頭を取りました。更にもっと空に向かって、何人かの亡くなった俳優、そして、リード家の死去したペットたちに乾杯した後、オリバーは突然立ち上がり、椅子の上に上り、私に尋ねました、「私の生きた美しい鳥を見たいかい？」と。

彼のお祭り騒ぎへのエネルギーを減少させたくなかったのも、私は「もちろん」と応えました。するとオリバーはズボンのチャックを開け、彼の物を取り出しました、それにはなにかの羽の生えた生き物が刺青されていました。(正確にはどんな鳥だったのかは決してわかりませんでした、尋ねたり、近づきすぎるのが怖かったからです。)

近くのテーブルで食事をしていた人たちは全く何も言うこともすることもありませんでした。私は、彼らはオリーのしたことによりあまりに衝撃を受け、それを信じることを拒絶したのだと思いました。彼らは復活祭の昼食をそのまま続け、何事も起こらなかったかのように振舞っていました。そしてオリーのお相手、ザ・ハット、そして私は残りの昼食がかなり神経質なものになったと思いました。

ハリーは後で私に語ったのですが、オリーの刺青は実際のところかなり有名で、ほんの数分前に会ったばかりの私にそれをあのように親しげに見せるとは、光栄に思うべきだとのことでした。

その時の私の反応は「何ということに巻き込まれたんだ？」と言う戸惑いでした。しかしオリーと一緒に仕事をするのにとっても楽しい人でした。仕事をしている時の殆どに半分酔っ払っていたにも拘わらず、彼は決して遅刻せず、台詞を忘れることも指示を逃すこともありませんでした、そして彼は現場ではプロ意識の典型そのものでした。

更に良いことに、イギリスの俳優/酒飲みの偉大なる伝統を受け継いで、彼は撮影をしていない間に、出演者たちを素晴らしく面白いショービジネスの話で楽しませてくれたのです。その一つがリチャード・バートンに関することでした。

リチャード・バートン、ラルフ・リチャードソン、そしてジョン・ギールガッドはシェークスピアの歴史ものをやっていました- バートンが「王様劇」と呼んだものです- そして昼の部の後、リチャードソンとバートンは出かけて行き、夜の部の前に相当酔っ払ってしまいました。ギールガッドは、彼が幕開きのシーンに舞台に入った人ですが、彼の大酒を飲んできた仲間について聞いたので、その心構えをしました。バートンが舞台に登場してきた時に、ギールガッドが言いました、「おや、ノーフォーク公爵はラインのおかしな大瓶を飲んでしまったようだね。」

バートンが応えました、「私が酔っ払っていると思うなら、ヨーク公爵が出て来るのを見たまえ。」

映画刷亭のほとんどは出演者パーティで終わるのですが、私たちが「スケルトンコースト」を撮影した時は、殆ど毎晩パーティをしていました。最後の出演者パーティの最中に、オリーは雄弁で全くのしらふで、ダイエットコーラをつぎつぎと飲んでいました。

その夜の或ときに、彼は私に、ロンドンで仕事をするときにはどこに泊まるのかを尋ねました。私は「ナイトブリッジのスローン通りにあるカドガンホテルだと応えました。それは、作家オスカー・ワイルドに無料で住ませた著名なイギリス女優、リリィ・ラングトリーが所有していることで—そしてワイルドとアルフレッド・ダグラス卿を同性愛行為による不快なワイルドの裁判と投獄へと導いた場所として有名なホテルでした。数十年後、周辺は「スローン・レンジャー」と呼ばれる裕福な若い女性達のたまり場としてしられるようになります、そのうちのもっとも有名な一人が後のダイアナ妃となりました。

オリーが私がカドガンに泊まったと聞いたとき、彼は私に真夜中近くにスローン通り近くに彼が行った時はいつでも、運転手に、偉大な俳優で劇場支配人であった、ハーバート・ピアボウム・トリー卿を讃える歴史的な銘板の前で止まるように頼むのだと言いました。彼はそこで一寸車を降りて、「放尿」してハーバート卿に、ビール一杯を捧げるのだと。私は後で、オリーとトリーが、有名なイギリスの映画監督キャロル・リードも含まれている演技権門を通して関係しているのだと知りました。

オリーは、1999年5月にこの「涙の谷間」（彼の言葉）を去りました。彼の強くて壊れそうもない心臓が、動かなくなり、彼を永遠に沈黙させたとき、彼はマルタのバーに座って居ました。そのバーは、今このカリスマ的で魅力的な人柄にちなみ、オリバーの最後のバーと名付けられたと聞きました。次に私がマルタに行くときには、そこを歩いてこの腕白小僧の中の小僧に私もかけてやろうと思います。

70年代の初期に、ロンドンでの3年間の「プロテクターズ」の仕事を終えた後そして1974年6月にリンダと結婚する前、私はベネズエラで「ネクストウィーク リオ」というタイトルの映画を取ることに契約しました。 それ

はベネズエラ、ドイツ、スペインそしてアメリカからなる共同制作になるはずで、私とドイツ、スペインのまだ名前を知らない二人が出演する予定でした。私の映画出演料は事前に支払われており、ビバリーヒルズの ICM に私の為に預託されていました。

何人かいるプロデューサーのうちの一人が私たちの宿がカラカスのアヴィラホテル、ロックフェラー一族に所有され、その街で一番とされるホテルになるであろうと電話してきました。「カトリーヌ・フォヌーブスイートが良いですか、それともイブモンタンスイート」と彼が尋ねました。

ほぼ適当に私たちはドヌーブスイートを選びました、そして私たち3人-リンダ、私、そして小さな白のプードル、ピップ-はカラカスに到着しました、そしてちゃんと、運転手付きの車に出迎えてもらいました。スイートルームはまずまずで、食事も口にありました、まあ四星とはいえなくても。しかし、これらがこの映画撮影で起きた最後の普通のことでした。

監督は優しいイギリス紳士でゴードン・ヘスラーでした。私たちは出演者紹介のための集まりもなく台本の読み稽古もありませんでした。その代わり、ただ単に次の月曜日のスケジュールを与えられ、週末の間くつろいでいることを許されました。

月曜日の朝に私は指示された通りに出向き、リオのメイク担当の、英語が全く話せない、男性に日に焼けた顔を作らせて見ました。彼は失敗して、ハロウィーンのアレンジの蛍光のようになってしまいました。私は彼に私のベン・ナイ No.3 を渡し、控えめに使ってもう一度やるように依頼しました。彼は私の顔をなにやら石炭酸のようなもので洗い、そしてメーキャップをたっぷり塗りました-また失敗です。それで、私はいつも持ち歩いている

アイルランドスプリング石鹸で顔を洗い、そして三度目はそこそこ上手く行きました。

この時点で、私はリンダに電話をして「私が電話するまで、荷物を全部開かないように」と言いました。

「どうして？」

「何か嫌な予感がするんだ。そしてショービジネスに関する限り、大体僕はあたるんだよ。」

私たちは一日目を計画通りに終わりました、唯一の遅れは悪天候によるものでした。翌朝、私は会話のあるはじめてのシーンがありました。私たちはカメラ割を終えた後に、撮影を開始しようとしたとき、見回してもマイクや音声担当が見当たりませんでした。

私はゴードン、私たちの監督に尋ねました。「どうなっているんだい？」

「あの、この国では、音声を後でやるんだよ」

「撮影しているときにガイドトラックを録音しないのかい？」と私は尋ねました。

「彼らはそんなの気にしないんだ」

かなり困惑して、私は返答をしました、「あのね、ゴードン、私はカトリーヌ・ドヌーブスイートにいるから。普通のハリウッド音声設備が到着したら教えてよ。もし48時間以内にここに来なかったら、ビバリーヒルズに戻ることにするから。」

リンダと私はアヴィラホテルのプールサイドで素敵なキャンドルライトで夕食を取っていました、その時、明日音声装置が届くだろうと知らせる電話が掛かってきました。

脅迫は、私は分かったのですが、いつも迅速な反応を育てます-なにかにつけ。

その週の残りは大きな混乱も起きずに過ぎました、しかし私はまだ、ヴェネズエラスタッフに広がっている不穏な雰囲気を感じ取っていました。

金曜日、現場に噂が飛び交いました。スタッフは、私たちは言われたのですが、その朝に支払われることを期待していた、しかし、それは起きなかったと。私は肩をすくめ、リンダとゆったりとしたプールサイドでの週末に落ち着きました。月曜日早朝の撮影に備え、私は日曜の9時半に就寝しました。

月曜日の朝第二アシスタントディレクターからの電話に起こされました。「迎える時間は忘れてください。」と彼は言いました、「今は知らせがあるまで待機の状態です。」 私はこれは少々動揺しましたが、非常にと言うほどではありませんでした-土壇場でのおかしな変更はハリウッドでも良くあることです。そしてリンダと私は、いつものランチが用意されているプールへ出向きました。私が食事をするために座ったその時です、地元の新聞を開くと、私たちのプロデューサーの一人が一面を飾っていました-刑務所の中。

そしてその時から本当におかしな事が始まったのです。

私たちはホテルの支配人から、ベネズエラの法律では、私たちとその映画に関係する全ての人が、形式上映画のスタッフに支払いが行われるまで、軟禁状態に置かれるのだと言われました。更に、もし私たちが支払いをしないで国を去ろうとすれば、私たちも刑務所で監督に加わることになるというのです。

「真面目にそうなの？」私は支配人に尋ねました。

「残念ながら、そうなんです。」支配人はかなり困惑した表情で応えました。

「貴方の国の偉大なボクサー、フォアマンさんですら、出国前に支払わなければ鳴らなかったんです。」

やれやれ、こういう種のメッセージは注目を引きます。私はアメリカ大使を捕まえることはできませんでしたが、私たちの苦境のことなどなんにも知らないジョー・フニセロには連絡がつかしました。私は彼にジョージ・フォアマンが出国するために支払った金額を調べるように頼みました。ジョーは間もなく50万ドルと言う数字を知らせて来ました。それは当時の為替レートで考えると、10億ボリバル相当をベネズエラ政府に払うことになるのだと推察しました。

私がやっと国務省の人間と連絡が取れたとき、彼は「問題はですね、ヴォーンさん、これらの共同制作者たちと取引をした男、イタリア人ですが、彼が2週間前に暗殺されたことなんですよ。ですから白紙になってしまったんです。」

「私はどうしたらいいんですか？」と問いました。

「ここは南アメリカですから」明らかに肩をすくめて応えました。「それが世の中と言うものです。」

私たちの軟禁の一日は夜になり、そして数日、そして数週間となりました。リンダ、ピップそして私の写真が地元の新聞にほぼ毎日掲載されました。プロデューサーの一人が裏で交渉して、私たちに条件を提示してきました：もし私たちが出国したいなら、彼は私の支払いを5千から5万ドルの間にする事が出来ると思うというのです。しかし、この頃には私は怒り、更にもっと怒って

いました。「私はびた一文払う気持ちはない。」と言いました。「そしてもし、将来私にこの映画を完成させて欲しいのなら、君が払うんだね。」と。

プロデューサー代理人と云う弁護士が私の為に何が出来るかを彼の事務所で話し合いたいと言っていると伝わってきました。私は、自分の運転手、代役、アメリカ人スタントマンのボビー・ハーロンを会合に同席させることを条件に同意しました。（ええ、私は神経質になっていました）弁護士事務所も同意して私たちは車4台編成で街を相当はなれた田舎へ、ドライブイン映画のスクリーンに埋もれた、文字通り地下にある弁護士の事務所へ行きました。

私との約束を破り、入口の警備員は私の3人の随行者を入れさせませんでした。「どうにでもなれ」「私一人で行くよ」と私は腹をくくりました。何と言っても、私は恐れを知らない国際的なスパイ、ナポレオン・ソロだったではないのか？ いや、実際は、とんでもない苦境にいる、ボビー・ヴォーンでした。

その弁護士は大きく、威圧的で大きな口髭をはやし、なんとなく「革命児サバタ」のマーロン・ブランドーを思わせる風貌でした。室内は瀕死の雄牛の写真で満ち溢れ、机の上に大きなピストルが置いてありました。

彼の私に対する第一声は「あんたたち英米人は、ここの俺たちが皆野蛮人だと思ってるよと知っているよ。」でした。

私はその意見にたいする適当な応えが見当たらなかったもので、黙っていました。

交渉が始まりました。恐らく脅迫と言うのが正しい言葉でしょう。とどのつまり、もし私とその弁護士に5桁の上の金額を支払えば、私たちをその国から脱出させることができるであろう、と言うことでした。私は拒否しました、そ

の理由の一部はこの状況の不公平さで、さらには、正直に言って、彼に私との約束を実行する能力があるかどうか疑わしかったからです。私はアヴィラホテルのリンダのもとに戻りました。私たちの軟禁はニヶ月目に入りました。

ついに、私たちの衣装担当女性の空港で働くお嬢さんの助力で、計画が立てられました。もし私たちが地元の人の扮装をするなら-私たちの犬のピップも含めて-その飛行機がどこ行きであろうと、一番最初に出発する飛行機を待つのであれば、私たちの出発の日を用意できる、と言うことでした。

そして、そのように事が運びました。セラーペ、ソンプレロに身を包み、数え切れないショールとバスケット(そのうちの一つにはピップが入っていました)を持ち、私たちは一番最初に乗れる飛行機、マドリッド行きを捕まえ、本通にある四つ星ホテルへと移動したのです。そのすぐ後、私たちはアメリカへ戻りました。

その映画はバルセロナの、クリント・イーストウッドが「荒野の用心棒」を制作した時に使用したセットで、やっと完成しました。私は新しい契約の条項で、毎朝撮影が始まる前に米ドルを現金で支払いすることを要求しました。なにか不都合が起きたときには、直ちにホテルへ戻りそして空港へ迎えるように、私の運転手も常に待機しなければなりませんでした。その映画は翌年「ブルージーンとダイナマイト」と言う新しいタイトルで、翌年について公開されました。私は一度も見ていません。

1981年、ビバリーヒルズからコネチカットに引越して直ぐに、私は全ユーゴスラビア制作会社による第二次世界大戦映画を、三ヶ月間ユーゴスラビアで撮影するために呼ばれました。出演者には他に3人のアメリカ人が含まれ

ていました：ジェームズ・フランシスカス、エドワード・アルバート（エディー・アルバートの息子）、そしてTVムービーでのチャーリー・マンソン役で素晴らしい演技を見せたスティーブ・レイルズバック。この制作には他のアメリカ人は一人も関わっていませんでした。

私はこの仕事を受けるにあたり、ひとつだけ問題がありました：私はその時足首を骨折していたのです。それはちょっと皮肉なことであつたのです。私は6才の息子、キャシディをちょうどスキースクールに連れて行っており、私自身がスキーをすることはきつく拒否していたのです。「もし私が転んで、足首を怪我したらどうするんだ？私は何ヶ月も仕事ができなくなるんだよ。」翌日、コネチカットのニュー・カナーンの明るい晴れた日に、私は縁石を踏み外し、足首を骨折してしまいました。しかしこの不幸な出来事を代理人のジョー・フニセロに言わないでいたため、このユーゴの映画が来たときには、リンダと私は受けるべきだと決めたのです。翻訳された台本を読む限りでは、私に肉体的に要求されるものは、乗馬以外はありませんでした、そしてそれは殆どの俳優と同じように、私はほどほどに上手くやっています。

私が契約に同意してからベオグラードに出発するまでの間に、私は毎日少しずつ痛みが増していくのを感じました。私の医者は旅行には行っても良いが、もし痛みが耐えられないほどになったらピンを抜いてもらうようにと言いました。とても簡単なことです、そうでしょう？いえ、間違っていました。

ベルグラードでの初めての夜、私は映画の監督、共産主義者主導の映画界に置いて、とても重要人物であると、私は言われていたのですが、その監督と食事をしました。（私は彼の名前も映画の名前も未だにちゃんと知りません。）完璧なる英語で、彼は私の足首の問題を一蹴しました、「あなたをこの映画に

迎えることが出来てとても誇りに思っています、映画を通して杖を使っても座っていてどちらでも構いません。」と言って。

そして、彼は爆弾を落としたのです：全てのアメリカ人俳優は会話を英語とセルビア-クロアチア語で行わなければならないだろうと。私は「それでは、貴方たちが会話を私たちアメリカ俳優のために、発音記号で書いた大きなカードを沢山用意してくれることを願っています、私達誰一人としてユーゴスラビアの言語を話せる人はいませんから。」と返しました。それは監督にとっては気にならないことであつたようで、私達は映画の成功を祈って、乾杯しました。

翌日、私はジミー、エドそしてスティーブに会いました。「私達はとんでもないものに契約してしまったのではないかと恐れているんだ」、私が発見したことを彼らに説明しました。「まだまだサプライズが待っているような気がするんだけどね」とも付け加えました。そうだったので。

共産主義の観点を維持するために、ユーゴスラビアにおける誰もが、外国人ゲストも含め、表面上は同じに扱われました-ひどい方に。私達の主なロケ地は、第二次世界大戦の戦場となつたところで、政府機関によってエキストラとして徴集された何千人もの本物のユーゴスラビア兵士と一緒に、ノビ・サドにある私達のホテルから車で、一時間半～二時間を要するところにありました。これは、ロケの本拠地に行くのに、おおよそビバリーヒルズからパームスプリングスまで運転するのと同じ時間に相当し、私達は全くもって、毎日ひどいことに2回往復しなくてはならなかったのです。（あとで、もっとひどいことが）

次の問題は食事でした。私達の通訳（私は彼をズコと呼んでいました。）は、私達の契約はノビ・サドホテルから毎日暖かな昼食を運んでくることになっていると説明しました。残念ながら、出来てから二時間もかかって運ばれては、

それは暖かくもなく、食べれたものでもありませんでした。（監督、素晴らしいワインと素敵な食事を好む彼について言えば、私は彼がどこで食べているのか知りませんでした、私達の昼食の時間になるとすぐに見えなくなりました。）

二日経って、私達4人のアメリカ俳優はストライキに入り、地元のレストランで食事をしました、食事はとても塩辛くてホテルから持ってきた瓶にラベルのついていない水で流し込まなくてはなりませんでした。幸いにも、このスラブ式2段階方式は私達を倒れ込ませることはありませんでした。

そしてトイレのある控え室の問題がありました。毎日、私達はそれが向かっているとわれ、毎日それは現れませんでした。それで、ズコは私達に森の中へ十数メートル入り、「木を選んで下さい、そしたらあなたがたの選んだ木に貴方たちの名前を貼っておきますから。」と提案しました。そして私達はそのようにしました、だって私達は男性です、男性はそういう事にはカリカリしないのです。

私達は毎晩ホテル（正直ひどいものです）まで車で連れて帰ってもらえるはずでした、そして通常はそうだったのです。しかし、3回異なる機会に、私は第二次世界大戦の共産主義パルチザンの服装のままロケ地に取り残され、数百マイルもヒッチハイクで戻らなければならなかったのです。

これらの2・3週間後、私は不満を言うのをやめました（代理人以外には）そしてひたすら厳しい試練が終わるのを待ちました。リンダとキャンディーが一日訪ねてきて、そして普通の休暇を過ごすためにパリとジュネーブへ飛び立ちました。何度かの機会に、私達アメリカ人悲劇役者達は、塩辛くない食べ物のために、ウィーンまで4時間列車に乗っていきました-そしてそれは時間をかける価値が大変ありました。

私の足首についてですが：私はズコにある時点で、もし痛みがとてもひどくなったら、最上の外科医にこのピンを抜いて貰いたいのだと言っていました。私はアメリカで撮ったレントゲン写真さえも持参していました。その日がやってきたとき、私はロンドンで研修したという英語を話すとても良さそうな医者を紹介されました。

ある程度信頼できると感じて、私はその医者「部分麻酔で良いですよ、そのようにピンも挿入されましたから。」と言いました。彼も同意し、私の足首を鼻につく消毒薬で徹底的にきれいにしました。そして、次の30分間に亘り、彼は一連の注射をし、其のたびに手術をするに良いだけ麻痺しているかどうかを私に尋ねました。ついに、私の足首が完全に準備が整っているようではなかったのですが、私が彼に告げました、「もうどうでも良いから、さっさとやろう！」と。

何が起きたかももう想像がつくと思います。その医者が最も大きな水平のピンを取り出した時、私は「オディプス」のオリヴィエのような悲鳴（舞台で今まで聞こえた中でもっとも恐ろしい音と良く表現されている）をあげました。赤ちゃんを産む時がどのようなものなのか分かりませんが、このような恐ろしい経験と同じでないことを祈ります。

びくびくして、その医者は傷に包帯を巻き終わりました。「傷が回復するまで、2・3日置きに包帯を変える必要があります。」と言いました。「しかし、私は休暇に出かける予定なのです。ですから地元の救急センターへ行かれることを進めます。」と。

「ところで、」と彼は付け加えました。「ちょっとお願いしたいことがあるのですが、よろしいでしょうか？」 彼は英語の医学書の名前を私によこしま

した。「これは最新の外科技術の本で、とても手に入れたいのです。」私は「最新の」という言葉を聞いたときにちょっと青ざめました、しかし、本を見つけて、私のプレゼントとして送ってあげてを彼に約束しました。彼はとても感謝していました。

2・3日後、私は私の運転手にノビ・サド救急病院に連れて行かせました。しかしながら、そんなに長居はしませんでした。私が列に並ぶや否や、私は自分が滑っているのに気がつきました。見下ろすと、血が床を診察室のドアからずーと流れて被っていたのです。悲鳴が響きわたりました-担架に乗せられて運ばれている二人の銃で撃たれた犠牲者と前の列近くの明らかに複数回刺された誰かからです。

片足を引きずりながら外に出て、運転手に「さっさと行こう」とサインを出しました。何が起きたかを説明すると、彼は彼のガールフレンド-看護婦の種の仕事をしている-が新しい包帯をもってホテルに来れると言ってくれました。彼女は数分で到着し、私の滞在している間の私の個人的な包帯交換師となりました。彼女に米ドルで支払った時、彼女はまるで私が彼女の重さ分のエメラルドをあげたような喜びようでした。

私はその医者にとっても高い医学書を送りました、しかし彼にそれが届いたのかどうか分かりません、彼から何も音沙汰がありませんので。そしてその映画？ 一度も見たことがありません。

最後にもう一つ海外ロケでの出来事ですが、これはペルー、リマ郊外のマチュピチュの上でのことです。この映画は”大統領暗殺司令”というタイトルで監督はルイス・ロッサ、ペルーで最も有名な作家のひとりであるマリオ・ヴァルガス・ロッサの弟でした。

この仕事については、アメリカ人プロデューサーから”輝く道”という名で知られている毛沢東主義ゲリラ組織が撮影場所にすごく近いところに宿営している、と聞かされるまでは特に何の心配もしていませんでした。何人ものアメリカ人ビジネスマンが誘拐されていたにも拘わらず、ゲリラは私たちが映画の撮影をしていることを理解しているから何の問題もないと保証されたのです。それに応えて、私はAK-47で武装したボディーガードをwたしの側に24時間体制でつけることを要求しました。驚いたことに、この取引は3人の護衛のために写真にサインをすることが条件でした。その通り、護衛は昼も夜も私と一緒にいました、私の部屋の外のホールで酔っ払っているか、居眠りをしているかで。

毎日、私は撮影スタッフと一緒にバスに乗り山を上がりました。（地元の少年がバスの沿ってずっと走り、その報酬としてバスのみんなからペソやドルなどいろんな通貨の小銭をもらっていました。）聖ジェネシスが私たちの映画を守ってくれたのでしょう（彼は俳優の守り神です）。夜くらくなってからのいくつかの銃火以外はすべて順調に行きました。しかし、これもまた私は出来上がった作品を見ていません。

私はビバリーヒルズに無事戻り、その時初めて妻にこの撮影の時の状況を話しました。

リンダはそれを聞いて面白がりませんでした。彼女は、私にこれから俳優の仕事でどこへ行こうとも、事前に必ずどこで仕事をし、予算がどのくらいなのかをはっきりとさせること、それにより、私が本当に安全でちゃんと

出演料がもらえるかどうかを判断するようにと約束させました。 そうしてから、台本を読むようにと。

そしてそれ以来この方法に従っています。

2004年から私は「華麗なるペテン師たち」という番組のためにロンドン（これ以上安全な場所はありません）で仕事をしています。私は何かを探していた訳ではありません、私は毎年何百もの脚本を受け取り、大抵10頁も読み進めないのです。しかしながら、「スプークス」あるいは「MI-5」、イギリスにいるのかアメリカにいるのかによりますが、これを制作した人達から3つの脚本が私に送られてきました。私は最初の脚本を読みました、そして二つ目、そして三つ目—そのころには私の妻が気づいていました—そして 私は「これは本当になにか違う」と思いました。幸いなことに私は正しかったのです。

撮影への参加はギリギリのことでした、そして私はロンドンに3日遅れて到着したのです。記者たちは、私にこの役についてどう思うか、どういう研究をしたのかをインタビューしたがりました。もちろん、私は事前に時間がありませんでしたから、その場で作り上げました。もしナポレオン・ソロが秘密諜報員の少ない年金をもらって退職し、しかしあまりに良い生活—車、お金、良いホテル—に慣れすぎていた、そしてもちろん何と言っても興奮に慣れすぎて退屈したら、彼は法律内で一体なにができるだろうと考えたんだ。 彼らはその話を気に入りました。

私達は今第5シーズン目に入ろうとしています。私はイギリスのとて経験豊かでプロ意識の高い俳優たちと一緒に仕事をするのを楽しんでいます。言うまでもなく、私は詐欺の手口については何も学んではいません、彼らは沢山の人々を巻き込み、彼らのやるべきことにすても優れていることを除いては。 沢

山の専門用語があって面白いですー私は「ローパー」で、それはお金持ちで詐欺の対象になりそうな人を惹きつける役割です。ナポレオンが本当にこれをするだろうかと疑問には思います。4年経った今でも脚本はとても高水準で、このような質の高い仕事ができることに、とても満足しています。